



市消防団員として初の褒章

5/19 前市消防団長寺畑さんが藍綬褒章受章報告

3月まで市消防団長を務めた寺畑佳司さん(穂高有明)が、本年度の春の褒章で公共の利益に貢献した人に授与される「藍綬褒章」を市消防団員として初受章しました。寺畑さんは昭和62年、旧穂高町消防団に入団、市発足後は方面隊長、副団長を務め、団長として消防力の強化や、団員確保対策などに積極的に取り組みました。

市役所で5月19日、宮澤市長に報告した寺畑さんは「受章は、家族や職場、団員の支えのおかげです」と感謝し、「今後は、地域の自主防災活動に経験を生かしていきたいです」と話しました。



安曇野の初夏の味を楽しむ

5/22 安曇野の里・あかしや祭り

あかしや祭りが5月22日、豊科南穂高の安曇野の里で行われました。この催しは毎年アカシヤの花が咲くころに、地元の住民が中心となり開催しています。

会場では玉ねぎなどの特産品の販売や伊勢志摩の海産物の直送販売のほか、アカシヤの花の天ぷらが振る舞われました。

名物となっているアカシヤの花の天ぷらを食べた来場者からは「花を食べたのは初めて」「少し甘くておいしい」などの初夏の味を楽しむ声が聞かれました。

小遷宮 ご神体が本殿に遷る

5/8 穂高神社・式年遷宮(小遷宮)「本殿遷座祭」

穂高神社で7年に一度の盛儀「式年遷宮祭」(小遷宮)が5月の連休期間を中心に行われました。小遷宮は、20年に一度本殿を造り替える「大遷宮」の間に2回行われ、本殿からご神体を仮殿に遷し、本殿を清めた後、再びご神体を元に戻す行事です。

5月8日未明には、「本殿遷座祭」が行われ、たいまつのみかりが灯す厳かな雰囲気の中、仮殿に遷してあったご神体は、氏子らが警護する中、神職の手で本殿に遷されました。

また、期間中、奉祝行事として「穂高人形大飾物展」や「稚児行列」なども行われました。このうち、5月5日には「玄海の砂持ち」が行われ、安曇族と関わりが深いと言われている福岡市志賀島から運ばれた海岸の砂を参拝者が本殿の周囲にまいて清めました。なお、期間中、今回初めて市内4地区のオフネを集めた「安曇野オフネ祭り」も行われました。



豪華なバラと安曇野の水を楽しむ

5/28 バラ祭り・安曇野ドリンクフェスタ

「第16回バラ祭り」が5月28日から6月5日まで豊科近代美術館のバラ園で開催されました。初日の28日には、バラの苗木の販売や市内若手作家によるクラフトショップも出店し、バラの香りが漂う園内では、色鮮やかな豪華なバラの花を背景に記念撮影する人の姿が見られました。

また、この日隣接する市役所東側入口付近では「第1回安曇野ドリンクフェスタ」も開催されました。この催しは、安曇野の「水」のおいしさを、地域で製造する飲料を通じて知ってもらおうと製造業者、販売店による実行委員会が企画。会場では、市内や大町市、北安曇郡の製造業者16社が製造する日本酒やワイン、ビール、ソフトドリンクの試飲ブースが設けられ、来場者は、さまざまな味を楽しんでいました。来場者の丸山智さん(豊科南穂高)は「安曇野の水のおいしさを見直す良い機会になりました。たくさんの製品があり、県外へのお土産の参考になります」と話してくれました。



リンゴの木のオーナー制度30周年

5/29 リンゴの木オーナー制度開園式

「リンゴの木のオーナー制度」が30周年を迎え、開園式(市観光協会主催)が5月29日、堀金総合体育館で開催されました。

会場には約600組の家族などが集まり、農家との対面式や抽選会などが行われました。抽選会では、30周年を記念して市内宿泊施設の宿泊券などの景品が用意され、大いに盛り上がりました。その後、各農園に移動し、オーナー木への名札の取り付けや交流会が行われました。オーナー3年目の高橋淳さん(東京都)は「自分の木から収穫できるのがうれしいです。安曇野のリンゴは味がよく、子どもや職場の仲間も毎年楽しみにしています」と話してくれました。



農家民泊で安曇野暮らし体験

5/19 農家民泊受け入れスタート

都会の子どもたちが農家に宿泊し、田舎暮らしを体験する農家民泊の受け入れが5月19日から始まりました。初日は大阪府茨木市立三島中学校の3年生79人が訪れ、堀金支所前で受入れ農家との対面式が行われました。

各農家に分かれた生徒は、農作業体験や安曇野の家庭料理を味わいました。初めて田植えをした北見徳啓さんは「足がとてくすぐったかったけど、とても楽しかったです」と話してくれました。